

HAコーティングインプラントを使用した低侵襲治療

岸本歯科医院 岸本幸康

Minimally invasive treatment using HA-coated implants

Kishimoto dental clinic Yukiyasu Kishimoto

歯科インプラントは、欠損補綴として有床義歯やブリッジにくらべて咀嚼力を回復させることに有利であることは、インプラント治療を臨床に取り入れている歯科医にとって一般的に知られている。インプラント治療は、骨量や骨質が良好で、安定した咬合関係の症例に施される場合、基本的歯科医学の知識と技術が伴えば、むつかしい治療ではない。しかしそのような症例は少なく、しばしば骨移植や GBR など骨造成術の併用が必要となる場合がある。患者にとって侵襲性の高い手術となり、治療期間が長期化し経済的負担も増す。不幸にも処置が目的を達せなかった場合、そのダメージははかり知れない。できるだけ複雑な手術をおこなわず、シンプルな治療方針で臨むのが理想的である。演者は HA コーティングインプラントは骨量や骨質が悪い部位にインプラント治療を施す場合、有力なツールとなりうると考え、本学会の前身である IAI 研究会や AIM で、骨移植や GBR を行わない症例について報告してきた。今回のシンポジウムでは、いままでに IAI 研究会および AIM で発表した症例のその後と、最近経験した症例も加えて、HA コーティングインプラントを使用した低侵襲な治療について発表する予定である。